

1 (5月2日)

秘

本	日	の	新	聞	概	観
---	---	---	---	---	---	---

第二百十八號 内閣情報部報道班 一五五三(木)

△概観

本日から地方長官會議が開かれるので、「讀賣」「國民」は之をトップにした外「都」が「物動計畫」を、他は何れも「支那艦隊司令長官異動」をトップとしてゐる。各紙に「精動懇談會」が大きく扱はれ、「日日」に「官吏制改革」があり、國內記事が政治面の大半を占めてゐる。昨日に引續き「農林増産督勵班報告會」が「日日」「都」以外で扱はれてゐる。

外國關係では夕刊から引續き、伊の動向が中心となり、地中海方面に注目が移されてゐる。戦況ニュースは尠くなり、獨軍優勢がロンドン等の電報でコンファームされてゐる。「朝日」東人西人欄は吉田厚相の前線報告を取上げ、「前線將兵を安心させるには政府が率先して國內の各種缺陷を是正し民に不平なからしめることが肝要だ。抽象論を並べ何一つ琴線に觸れるやうな政策を立てないのであれば阿部内閣と選ぶ處はない。目標を示し希望をもたせよ。それが出来ない政府なら出直せ」と決め付けてゐる。「都」の「狙撃兵」でも厚相談を取上げ政府に當つてゐる。

「日日」社會面には「地方人の鼻つまみ、都人の興亞奉公日行樂」がある。

（以下は非常に暗く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる）

△國內關係

一、地方長官會議關係

「讀賣」が「懇談會で吐露する長官の意見」を政治面トップにおき、經濟面に「地方長官へ要望」（財界、農村團體、商工、農林省、企業院）を扱つてゐるのが目につく。其他「地方事情を奏上」、「内相訓示（經濟割據主義打破へ）」がある。

二、改組精勵の初懇談會

各紙に首相挨拶と質疑應答が大體同じ内容で大きく扱はれてゐるが、「國民」が「外米輸入量も發表、糧食不安解消へ（農相言明）」、「日日」が「無用な秘密主義排撃」、「都」が「國民最低生活確保」を見出しに關つた外、他は首相挨拶を見出しにしてゐる。「朝日」に「精勵地方機構、内務省中心に組織」、「日日」「都」に「精勵理事會」がある。

三、物動計畫見透しつゝ（都）

「生活必需品に切符制、國民消費計畫樹立へ」の見出しで物動計畫は見透しを得、今月中に閣議に附議されよう。今次計畫の特色は生活必需品を計畫品目に編入した點としてゐる。尙物動暫定計畫は成案を得たので三日の閣議に報告されることとしてゐる。

四、官吏制改革へ（日日）

政府は地方官會議後官吏制度の全面的改革を取上げることになつたとし、下級官吏の待遇問題の處理を注目してゐる。

五、其他「石炭増産獎勵金交付規則一兩日中に公布實施」

△對外國關係

一、ヒューバー比島辯務官と外相の會談（都、國民、日日）

來朝中の比島ハイ・コミシヨナーの滞在中、外相と二三回の會談を催はすことになり、居り日米關係にも一轉機を齎らすかも知れぬといふ報道だが、「都」が第二面中央部五段抜に行見出し、有田、ヒューバー兩氏寫眞入りで大きく扱ひ、「國民」も第一面に三段抜三行見出しで大きく扱つて居るが、扱ひが大き過ぎる感があり、餘り早くから好轉の希望を持たせることは、考へ物だ。「日日」が下段二段抜見出しで扱つてゐる程度が適當であらう。

二、米ソヂスト派全國大會日本糾弾案否決（ニューヨーク朝日）

三、佛大使・谷次官要談……「讀賣」「國民」「報知」が小さく報ず。

△東亞關係

一、米人法幣援助に乗出し、中外、朝日

在上海米人有力者がハル濱官憲法幣安定のため支那に貸付をなすべき旨電請したといふ記事は「國民」夕刊に「上海米人策動」の見出しで報道されたが（ニューヨーク同盟）、本日、「中外」は上海特電で經濟補で、「朝日」が第二面の下段で報ず。

三、新政府の答禮使節の編成(各紙)

陳公博、梁鴻志、溫宗堯の三氏に決定。各紙編成など入れて相當に扱つてゐるが、一日付夕刊で「報知」が褚民誼氏説を傳へたのは誤りらしい。

三、其他……(イ) 中共領袖會議打切り(香港同盟)

△歐米關係

一、伊太利關係が中心ニュース

ローマ同盟が一日午後の伊閣議内容を傳へ、某國の新協定締結の件が閣議で承認されたといふ點を「中外」など大きく取上げてゐる。戰況ニュースは少い。伊が對英四項目の要求を提出したもののニューヨーク同盟、英船に南阿迂回を英當局が命令したものの報に伊が重大關心を持つてゐるもののローマ同盟などが主なニュースをなしてゐる。その他佛伊關係の悪化を傳へる同盟、英軍が危機に瀕してゐる英陸軍當局が發表したもののロンドン同盟などを各紙取上げてゐる。ニューヨーク「都」特電は英伊係争を教皇廳が斡旋するだらうといつてゐる。記事編輯は「中外」が整然として讀みいい。

3 (5月2日)

ニ、ソ聯陸相演説・コミンテルンのノー・デー宣言等(モスクワ同盟)

三、其他……(イ) 近東四國近く軍事會議(カイロ同盟)(ロ) 米、索敵艦隊はハワイに常駐(米海軍長官談(ホノルル同盟))

二日付夕刊

△國內關係

「中外」が地方長官會議に對する政府の決意として「米肥の配給圓滑と閣取引の根絶を期す」をトツプにした外、各紙に地方ブロック問題に關する「石渡官長と内、農、商各相協議」並に「地方ブロックの自然解消を望む、農相談」があるが、「報知」の「閣内の不統一を恐れ官長三相間を斡旋」の四段見出しは面白くない。

△對外關係

一、セーヤー比島辯務官參内外相訪問

△東亞關係

一、青陽入城部隊長聲明(青陽同盟)

二、毛澤東、反共派攻撃(香港同盟)

△歐米關係

一、英、商船の地中海廻り禁止(ロンドン同盟、朝日)……本夕の主要外電

- 二、米伊通商條約近く成立（ウエルズ特使の土産）（ニューヨーク朝日）、米、銀高買入れ
廢止（ニューヨーク朝日）
- 三、英政界政府非難で囂々（ロンドン同盟、朝日）
- 四、伊のガイタ氏「佛伊關係七十年」を紙上に發表（ローマ同盟）
- 五、太平洋封鎖強化英米協力（ニューヨーク報知）（ワシントン讀賣）
- 六、獨逸ドンバス占領（ベルリン同盟）、ヒ總統前線將兵激勵（ベルリン同盟）
- 七、米共和黨政策國內問題に重點（ニューヨーク同盟）

内閣情報部五・三

情報第一號

重慶ロイテル新聞電報放送（四月廿九日）

（朝鮮總督府遞信局聽取）

○支日双方矛盾せる主張をしてゐるので東南部山西、北部江西、南部安徽の戦況は依然曖昧であるが、重慶に達してゐる支那側の野戦電報より判断するに之等の戦線では目下異常に激烈なる戦鬪が行はれてをり、その結果はなほ未定である。山西省東南部の戦鬪は明かに日本側の手中にある晉城附近で行はれてゐる様である、日本軍は晉城占領後その西南方にある犁川鎮を四月二十六日に占領した、支那軍はその翌日反撃に出て同地を奪還し、日本軍を北方へ撃退したと支那側報道は主張してゐる。山西省東南部の日本軍は四月二十日同時に北進を開始した道清鐵路の友軍との連絡を達成するため南進を開始したことが想起される、一方河南省西北部黄河北岸の支那軍は沁河を渡河し、日本軍の後方を威嚇するため道清鐵路の博愛へ向つて北進した、山西・河南省境で大戦鬪が行はれてゐる。江西省北部南昌の日本軍は九江より援軍を受け、南昌に對する支那軍の進撃を阻止する爲猛烈な反撃を開始してゐる。戦鬪は南昌西郊で特に熾烈と云はれ、日本軍の先鋒は四月二十七日の夕牽新の近郊に到達したといはれる。安徽省南部―蕪湖上流の江南日本軍が目下二手に分れて南進してをり、一隊は繁昌より涇縣に進撃中、別隊は貴地（池州）より青陽へ進撃中。